

噴火に備えて

御嶽山は活火山です！

過去1万年に噴火した火山および現在活発な噴火活動のある火山を「活火山」と定義しています。御嶽山は近年では1979年（昭和54年）、1991年（平成3年）、2007年（平成19年）に噴火がありました。また、2014年9月に発生した水蒸気噴火は戦後最悪の火山災害をもたらし、現在も噴火活動を続けています。噴火やそれに伴う危険に備えましょう。

御嶽山の活動状況チェック！

・御嶽山の噴火警戒レベル

噴火警戒レベルとは、火山活動の状況を噴火時等の危険範囲や避難等の必要な防災対応に応じて5段階（レベル1～レベル5）に区分したもので、住民や登山者等に必要な防災対応が分かりやすいように、各区分にそれぞれ「活火山であることに留意」「火口周辺規制」「入山規制」「火口周辺規制」のキーワードをつけて警戒を呼びかけます。なお、レベルの段階に関わらず、気象庁からの情報には常に注意ください。

予報・警報の名称	レベル・キーワード	登山者・入山者等への対応
噴火警報	レベル5：避難	危険な居住地域からの避難等が必要
	レベル4：高齢者等避難	警戒が必要な居住地域では高齢者等避難者等は避難、住民は警戒の準備等が必要
火口周辺警報	レベル3：入山規制	登山禁止や入山規制等危険な地域への立ち入り規制等
	レベル2：火口周辺規制	火口周辺への立ち入り規制等
噴火予報	レベル1：活火山であることに留意	状況に応じて火口内への立ち入り規制等

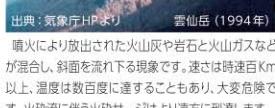
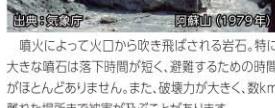
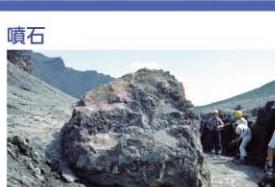
登山道の規制について

噴火警戒レベルの引き上げに伴い、火口周辺の立ち入りを規制する場合があります。立ち入りが規制されている場所へは、絶対に入らないようにしましょう。

御嶽山上空の風向き

噴煙は風に乗って風下へ流れ、噴石や火山灰を降らせます。噴火した場合は上空の風向きをチェックしましょう。

災害を起こす主な火山現象



斜面に厚く積もった火山灰や噴石が、雨の時に水と混じて谷などを勢いよく流れ下る現象です。大雨の時は注意が必要です。

火山灰

噴火によって立ったマグマの破片（軽石）や溶岩のかけらが噴き上げられ、地上に降る現象です。軽石や火山灰は下側に降るので、上空の風向きに注意し、火山灰が降ってきたらマスクか濡らしたハンカチなどで口と鼻をおおいましょう。目に入ったら、こすらずに洗い流しましょう。

火山ガス

二酸化硫黄や硫酸化水素など有毒なガスが含まれています。規制場所には入らないください。窪地や谷地形などに溜まりやすく、無風のときは特に注意が必要です。

空振

噴火に伴う爆発によって生じる空気の振動、衝撃波が大気中に伝播する現象。火山に面した窓ガラスなどが割れる被害が生じることがあります。

